2−2. 図書館システムとしての多摩市立図書館

（1）図書館システムとしての多摩市立図書館

中央図書館、駅前拠点図書館、地域図書館、学校図書館、アウトリーチサービスなどの奉仕の拠点をつなぐ、全市をおおう図書館サービスのネットワーク（図書館システム）の総体を、多摩市立図書館と考えます。

この図書館システムは「成長する有機体」であると言われます。その成長を支える３要素は、人・組織、本・情報、場・環境、であって、有機体の盛衰は図書館政策のありようにかかっています。

有機的な運動体・組織には全体を関連づけ統括する中枢機能が必要です。多摩市立図書館の近年の停滞の課題は中央館の不在といわれてきた理由です。高い専門性と中枢管理機能を備えた中央図書館は、サービスと資料の奥行きと広がりをつくり出し、市域全体に対応する拠点館・地域館を改善し魅力的にしてゆきます。これは、研究と先進国先進市での実例で証明されてきたことです。

役割分担は全体の図書館サービス網を充実させてゆくのです。

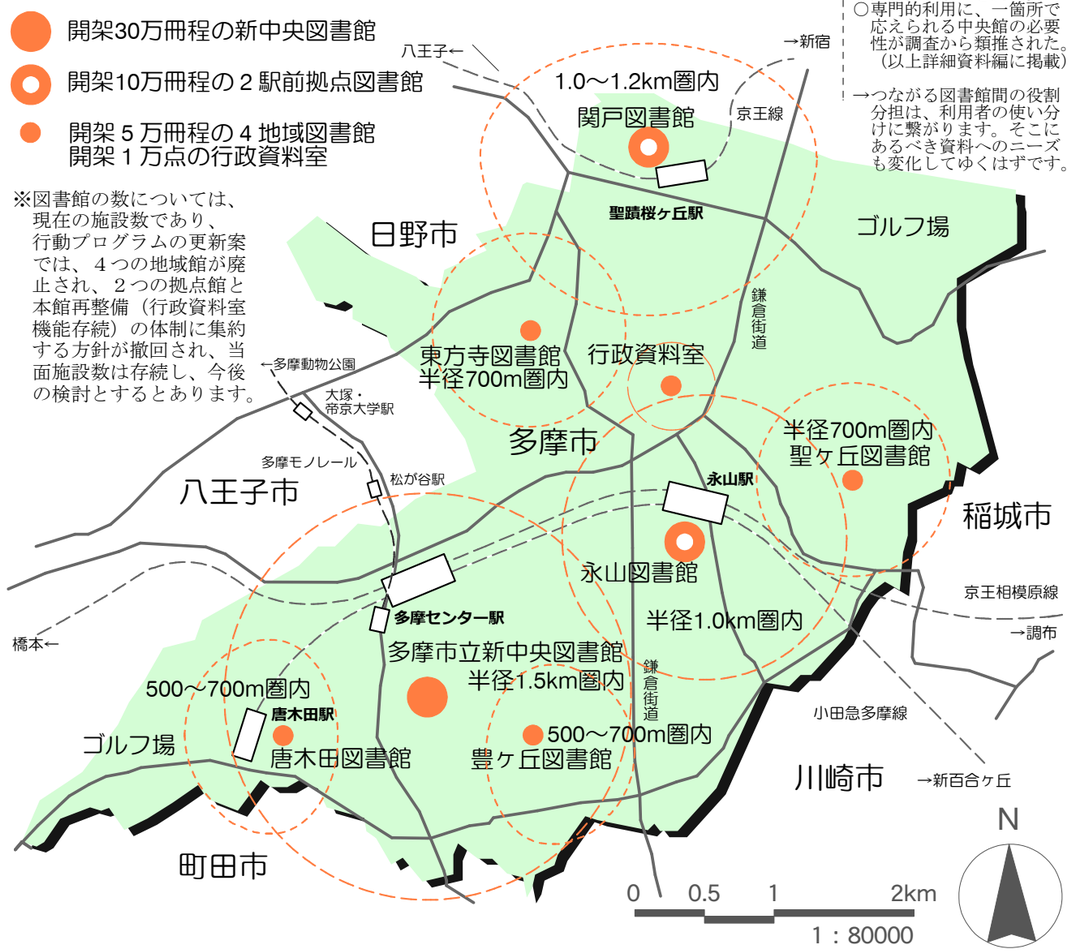
※図書館とは、建物のことではないということを、45年の経験の蓄積の中にある多摩市民であれば、誰でもが知っていることなのです。そのことは、多摩市の図書館政策の正しさと先進性を、自己証明しています。

※図書館は成長する有機体である。の出典はインドの図書館学者ランガナタンの著作「図書館学の五法則」。

※図書館が有機体であるということは、ひと手をかけず放置すれば、枯れて廃れるということを意味してもいます。

※多摩市立図書館の蔵書を名高い浦安市や調布市と大妻女子大松本研究室がカーリルを使って比較分析をしています。
○比較して低い資料予算にかかわらず多様な図書購入がされています。
○それらは拠点館地域館に分散的に所属され、一図書館でアクセス出来ていないことが確認された。
○リクエストの多さと棚の充実度が類推される。
○専門的利用に、一箇所で応えられる中央館の必要性が調査から類推された。
（以上詳細資料編に掲載）

→つながる図書館間の役割分担は、利用者の使い分けに繋がります。そこにあるべき資料へのニーズも変化してゆくはずです。



※図書館の数については、現在の施設数であり、行動プログラムの更新案では、４つの地域館が廃止され、２つの拠点館と本館再整備（行政資料室機能存続）の体制に集約する方針が撤回され、当面施設数は存続し、今後の検討とするとあります。

（2） 中央図書館：全市図書館システムの中枢機能と、より広く深い専門的サービスの部門・役割を、これからの多摩市立中央図書館が担います。

将来の中央図書館では、他市の成功事例を研究して、全出版物に対する収集カバー率や相対中央館アクセス率を高め、ワンストップで目的の資料に利用者がアクセスできる資料の体制を構築したいところです。多摩市内で、もっとも多くの幅広く、奥行き深い、現物の資料世界の中に入り、ブラウジングし、一冊の本を越えた資料の関係性を体感する開架です。

大きな資料世界がひろがる中央図書館の風景

（3） 拠点図書館：通勤・通学や買い物などの、生活に沿った利便な場所、開館時間、日常の調べ物にこたえられる資料やサービスと場を提供する役割を、これからも２つの駅前拠点図書館が担います。

通勤通学の駅近の図書館では、夜間開館や自動返却、予約貸出など、クイックで利便なサービスに重点をおきます。新刊や新聞雑誌など、新しい情報を充実させ、本館との連携で専門性を補完させます。開架室を滞在型に再配置して、人の居場所を充実させて、少集会や展示も取入れたいものです。

便利な駅前にある永山図書館の開架室

（4） 地域図書館：地域の暮らしに沿った、資料やサービスと出会い の場を提供する役割を、歩いてゆきやすい今の場所で、４つの地域図書館が担います。

子どもやお年寄りが日常的に生活圏の中で利用する図書館では、長時間開館や自動化機械貸出への投資よりは、全てに対応できる少数精鋭の職員が、ニーズに沿った資料を揃えて、多様な出会いの場を演出する、ふれあいを大切にするサービスが求められます。地域の学校との連携の拠点にもなります。

地域に向き合う東寺方図書館の開架室

（5）学校図書館：学校の一部である学校図書館は、公共図書館のパートナーとして、協力して児童・生徒へのサービスを担います。学校図書館が活動に必要な、資料構築と司書の研鑽が進むよう支援します。

学校図書館にいま一番必要なことは、新鮮な資料を購入する費用です。学校図書館間での協調した資料選定や学校司書の選書や相談業務のスキルを上げるなど、人に関わる部分で公共図書館は支援できます。学校が掲げるESDは、生涯に学ぶ姿勢を身につけることなので、社会連携が求められています。

学校に出掛けて本箱を並べた直接貸出サービス

（6） ネットワーク網：幼稚園や保育園、老人施設、長期療養型の病院、包括支援施設などで、これまでのサービス拠点にアクセスが難しい場合、配本車や宅配メール方式がアウトリーチサービスを担います。

また、それぞれの図書館に近くの団体のご希望があれば、学級招待や開館前利用など柔軟に受け入れ、利用団体との信頼関係が緊密になるように動きます。

病院に出掛けてゆく貸出サービス

2－3. 多摩N. T. 再生まちづくりの担い手となる図書館

（1）図書館は多摩N.T.再生まちづくりの重要な担い手。

多摩市での暮らしに役立つ魅力的な図書館があることは、多摩ニュータウン再生まちづくりに、故郷への帰属感に、暮らしやすい都市環境づくりにと、多様な局面でおおきな役割をはたします。

① 多摩市の魅力向上：良い図書館の存在は、居住地選択の上位の要因と言われています。魅力的な図書館が身近にある多摩市は、住みたい都市となります。人口が微増の多摩市ではありますが、人口の社会減をくい止めます。

② 出会いの結節点：人口の構成では高齢化が進む多摩市ですから、若い所帯の移入が期待されています。団地の建て替えや住み替えでは、暮らしに活気や利便性、出会いの機会を提供する図書館が人口誘引の要素になります。

③ 多世代交流の広場： 多様な世代が交流して、さまざまな都市活動で、都市に活気が求められるとき、図書館は活動を受け入れる「ひろば」になります。情報、もの、こと、に出会い、自分を確かめるサードプレイスです。

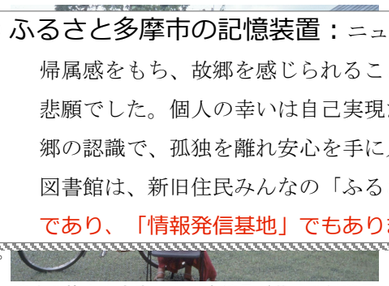
④ 地域コミュニティの相談者：若い世代、新しい世帯が、多摩市で暮らして、さまざまな課題の解決に困ったとき、図書館は「地域のコミュニティの相談者」になります。相談者として信頼に足る図書館員が待っています。

⑤ ふるさと多摩市の記憶装置：ニュータウン市民が地域に帰属感をもち、故郷を感じられることは、開発当初からの悲願でした。個人の幸いは自己実現だけではなく、属す故郷の認識で、孤独を離れ安心を手に入れることができます。図書館は、新旧住民みんなの「ふるさと多摩市の記憶装置」になっていきます。

料理を持ち寄り図書館集会室でパーティ

開架室で、コーラスのイブニングコンサート

みんなで、絵本作家さんとお話をする


芝生の築山を客席に、図書館員が昔風の紙芝居

⑤ ふるさと多摩市の記憶装置：ニュータウン市民が地域に帰属感をもち、故郷を感じられることは、開発当初からの悲願でした。個人の幸いは自己実現だけではなく、属す故郷の認識で、孤独を離れ安心を手に入れることができます。図書館は、新旧住民みんなの「ふるさと多摩市の記憶装置」
であり、「情報発信基地」でもあります。

※図書館は都市に住む者のサードプレイスといわれます。自宅と職場学校以外に定まった居場所を持たない都市の通勤通学者にとって、第３の居場所となる意味です。

◎ トピックス：

多摩ニュータウン再生

平成28年３月に策定した「多摩市ニュータウン再生方針」のもと、多摩ニュータウンの再活性化と持続化を図っていきます。

本方針の取り組みを着実に進めることにより、大規模団地の更新や子育て世帯の流入等を促進し、住民の高齢化や団地等の経年劣化に対応していきます。

多摩ニュータウン再生プロジェクト

多摩ニュータウン再生に向けた３つの個別目標

- 人と環境に優しい都市基盤・拠点構造へ再編する
- 惹きつけられ、住み続けられるまちを実現する
- 多様な主体が協働して循環型の地域サービスを育む

●公共施設の見直しとの関連では……

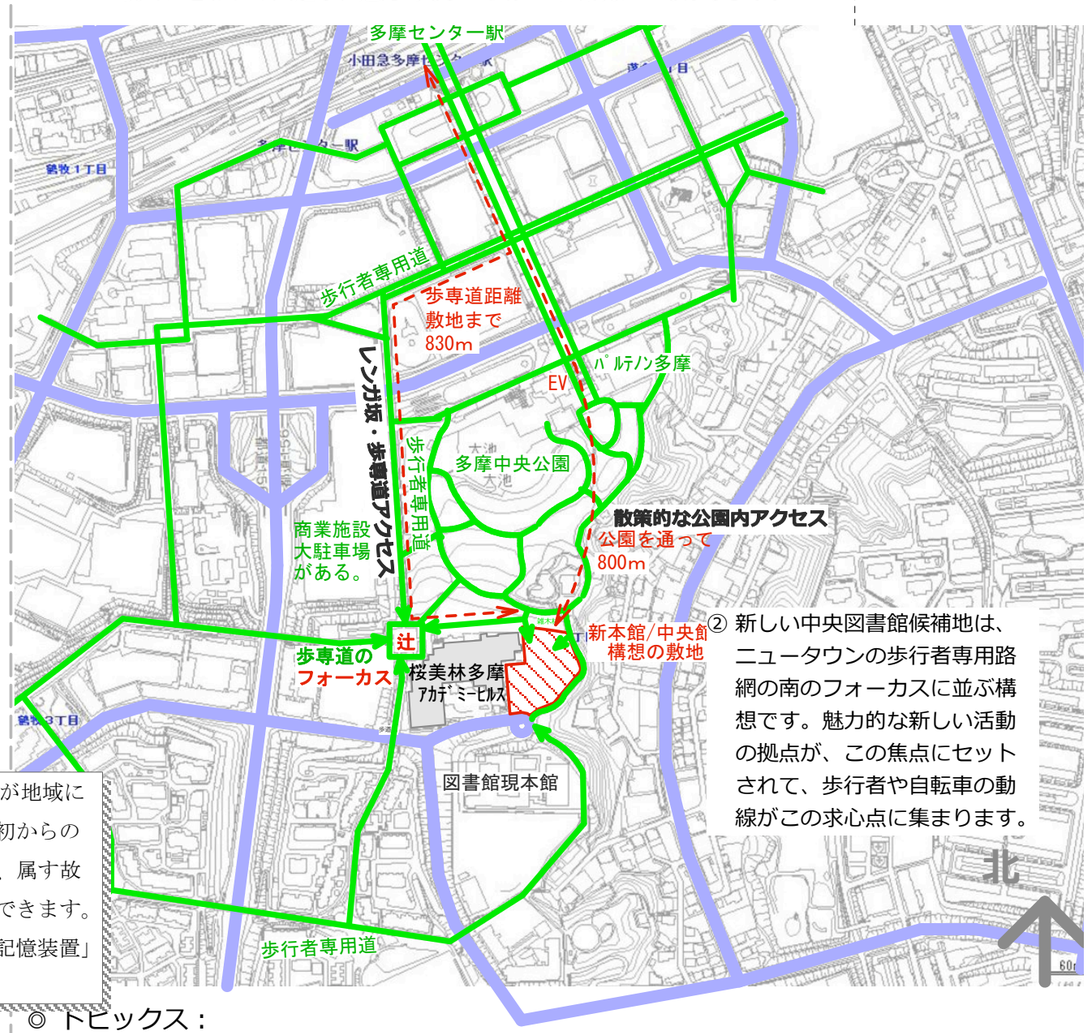
現在、東京都が進めている都営多摩ニュータウン諏訪団地の建替えをはじめ、今後他の都営住宅についても更新が見込まれます。その際には、学校跡地等を建替え用地として活用したり、都営住宅との合築により、市の負担を抑えて施設の更新や整備を行うなど、公共施設の見直しと両立し、相乗効果が発揮できる方法を検討していきます。

※トピックス出典：
多摩市政策情報誌 vol.3より

（2）図書館は中心市街地活性化・魅力化の役に立ちます。

① 新しい中央図書館は、多摩市の中心地に都市の求心力を育てます。多摩センター駅からパルテノン多摩、中央公園、新中央図書館へと続くにぎわいの大通り、魅力的なプロムナード環境につながります。

※中央図書館と呼ぶか本館とするか、これも今後の検討課題です。中央館の機能を持つ本館と言われる市民もいます。



② 新しい中央図書館候補地は、ニュータウンの歩行者専用路網の南のフォーカスに並ぶ構想です。魅力的な新しい活動の拠点が、この焦点にセットされて、歩行者や自転車の動線がこの求心点に集まります。

◎ トピックス：

健幸都市（スマートウェルネスシティ）

smart wellness city

多摩市は、だれもが健康で、生きがいを感じ、安全・安心に暮らせるまち、みんなが笑顔で幸せを実感できるまち、健幸都市を目指しています。

健幸都市の実現に向けて、高齢者も障がい者も住み慣れた地域で生活を続けられるように、地域ぐるみで支える「多摩市版地域包括ケアシステム」の構築や、「歩くこと」、「外出すること」が楽しくなるような都市環境の整備、市民のつながりを育む取り組み等を進めていきます。

平成28年度は、市民ワークショップや外部有識者会議等にて、市が目指す健幸都市の姿やそれに向けた取り組みを検討していきます。皆さんの地域での活動が、明日の健幸都市につながります。

一緒に多摩市を健幸なまちにしていきましょう！

●公共施設の見直しとの関連では……

公共施設の老朽化や厳しい財政状況の中でも、今ある施設の機能を地域の世代構成や新しいニーズに対応したものへ転換することや、ハード（施設）からソフト（事業）へ転換すること等により、将来にわたり持続可能な健幸都市を実現していきます。

※トピックス出典：
多摩市政策情報誌
vol.3より

２−４. あたらしい多摩市立図書館への提言

（１）あたらしい多摩市立図書館への提言（策定委員会からの意見リスト）

○「知の地域づくり」「知的地域再生」
図書館計画とまちづくりは重要なテーマ

○基本計画では「もののデザイン」へ。
基本構想では「ことのデザイン」から。

（１）は見開きの頁構成上で、表を先に出して、2-10ページで表の説明をしました。

「提言チャート」	資料世界 ＜本・情報＞	図書館員 ＜人・組織＞	図書館施設 ＜場・環境＞	市民利用者 ＜活動・協働＞	マネージメント ＜運営＞
図書館本館 ＜中央館＞ ・来館者への直接サービス ・非来館者へのサービス （アウトリーチサービス） （情報系ＩＣＴサービス） ・資料群構築センター （テクニカルサービス） ・政策／企画／総務	カルタ01/本・現本館 ○広い開架スペース（たくさんの開架資料） ○見つけやすく、課題解決につながる資料。 ○世界を体感できる豊かで深みのあるコレクション。 ○児童書を幅広く収集。 ○開架室にある本の出版年、古い物が多い。 開架室が広くなると魅力が維持できない。 ○資料費が継続的にある程度必要。 ○将来は電子的資料やデータベースなどが増える。 ○ＰＣネットワーク，情報媒体が今後重要。 ○広い閲覧スペースとＷｉ−Ｆｉ環境。 ○有料データベース提供、利用者端末の配置。 ○ＥＳＤの観点を図書館にも。 学習する上で、学校にある資料では賄えない。 ○予約受付件数が多い。 ○必要な資料が手に取れれば予約をかけなくて良い。 ○働き盛りの世代に需要のある専門性のある資料は中央館に集まっているとより効率的。 ○館ごとの蔵書規模が小さく専門的な資料を置きにくい。３０万冊規模になると網羅的に置ける。 ○仕事・資格・働く気持ち応援の資料 ○図書館が市民の問題を支援 いじめ、離婚、同性婚など様々な問題に対して図書館がブックリストを作成。 ○行政資料は、中央館で充実。 ○資料の所在を固定していない。 ○館籍を付けて再配置が必要か。 ○資料が返却された図書館に配架されるしくみ、全体の蔵書バランスと資料管理の方向性を検討。 ○地域館からも購入のリクエストは上がるが、本館で選書・見計らいをしている。 ○収書方針 多摩市がどのような基準で蔵書を集めてゆくか議論しておいたほうが良い。 ○ベストセラーを早く読みたいという要望と厚みのある蔵書構成になるという論点。 ○行政資料のＰＲ。	カルタ02/人・現本館 ○課題解決型サービス・ビジネス支援 新しい話ではない、市民の自己実現への支援。 ○働き盛りの人への高度なレファレンスサービス。 ○レファレンス機能の強化や働き盛りの世代への情報提供の強化。図書館は「ワンストップ窓口」 ○起業，商品開発，就職活動情報，就労、市民一人に図書館組織が応えていく。 ○児童サービス：読み聞かせ、おはなし会 ○ティーンズサービス ○地域向けサービス ○多文化サービス：資料収集を始めたい。 ○高齢者向けサービス：思い出語り回想法 ○ＳＮＳなどでの発信も必要。図書館でイベントをやっていても知られていない。若者に向けて発信。 ○就業支援で、地元に根付いた仕事を紹介。 若者の定住につながるのでは。 ○学校図書館支援は本館で行っている。 ○行政支援 市役所を支援することも重要。市役所の課題は、市民の持っている課題ともオーバーラップする。行政マンが効率よく仕事をすれば、市民の生活も良くなっていく。 ○経済の活性化や市民の健康は、行政の課題。 ○行政ブランチ、行政情報の提供や手続きの支援などもできれば良い。 ○介護や健康相談、社会的なサービスについて、なんでも聞ける窓口は、図書館では難しい。 ○課題解決支援ができる「司書の特別養成」 ○資料を活かすには司書の働きが重要。異動のルール化含めて、職員を育てる工夫を考えたい。 ○他自治体はどんなサービスをしているか、研究が必要。将来的なことに考えを進めるべき。	カルタ03/場・現本館 ○ラーニングコモンズのような市民が交流できる、自由に声を出して議論ができたりするところ。 ○画一的に静かにするのではなく「利用目的によって音環境デザインを変える」 ○メーカースペース：編集，３Ｄプリンターがあり支える図書館員がいる。開架室にあるとよい。 ○子ども未来会議や中学生サミットを図書館で。 ○未来志向の学習の場。調べる・発表する、会議。 ○20代の若者を誘引する集まりやすい環境づくり。 ○カフェやたまり場、中高生には自習スペースがあると活用される。 ○常設で子ども用の文化財展示スペース ○ふるさとのことを知ることができるコーナー ○ベビーカー置き場，おむつ替え，授乳コーナー 子連れの来館をしっかり迎えたい。 ○おはなしの部屋：読み聞かせの環境。 ○賑やかな子ども開架室が共存できる配置計画を。 ○多摩市で出版しているものは販売したい。 中央館で販売コーナーが作れるとよい。 ○図書館を居場所として活用。一人でいることができる、邪険に扱われない。人との出会いもある。 ○図書館の利用を情報収集だけとは捉えずに時間をゆっくり過ごすことを提案してもよい。 ○マルチカルチャーを目指すべき。20年後，30年後を見据えた図書館やバルテノン多摩であってほしい。 ○図書館本館は中央公園を大切にした配置計画になるように期待したい。 ○公園と図書館が一体になる計画、アプローチで「緑陰読書」ができるようにしたい。 ○歩いて図書館に来る人は公園の道を使ってもらえるように（高低差昇降を）整備してはどうか。 ○自然観察会を図書館で行うこともできるのでは。 ○公園側のアプローチは多様な可能性を秘めている。 ○環境に配慮した「グリーンライブラリー」をめざす。 ○車でのアプローチは大切。（弱者のための車） ○中央館敷地は高齢者にとっては駅から遠く思う。アクセスの補助については大きな課題がある。 ○気軽に魅力ある中央図書館に行けるように、巡回のマイクロバスが運行すると良い。	カルタ04/活動・現本館 ○図書館では障がい者サービスや児童サービスでボランティアが協力。 ○サービスの受け手となる利用者のヒアリングとボランティアをグループのヒアリングを行う。 （音訳・点訳を行っているボランティア団体など） ○市民と図書館が直接意見交換できるように。 市民グループは、今後も直営維持を希望している。 ○高齢化率が高い地域の世代構成の流動化が予測される。若い人に魅力ある図書館本館づくりを。 ○図書館が多摩への移住を誘うセールスポイントになるとよい。 ○年齢を重ねたひとたち、障がい者、子どももいて賑わう図書館であってほしい。声を出してもよい、気軽に利用できるような施設。 ○図書館協議会の活性化 定数を元に戻して、若い方や障がい者グループの枠を設けたい。協議会も増回するよう考えたい。	○できるだけ効率化。 ＩＣタグの導入で自動貸出や返却、書庫の出納も早くなると聞く。 ○個人貸出冊数は全国平均の倍の実績。サービスの成果としては成功。 ○コストを下げる工夫をするか、他のサービスの充実を目指すか。 ○リクエスト件数が多い。 どう維持していくか。 ○組織そのものの見直しが必要。 ○常勤職員における司書割合は52.3%。 嘱託職員の司書割合は100%。 ○多摩市の司書割合は全国では平均的 ○専門的な正規職員の採用や職員をどう動かしていくか検討が必要。 ○図書館の自己評価・外部評価の実施と公開を行うべき。 ○地域館・拠点館 本館と分館でよいのではないか。 ○拠点館は駅前にあり、他市の分館と比べても規模が大きい。 開館時間も長く、蔵書規模も大きい。ターミナルにあるので利用のされ方は違う。地域館と分けて考える必要はあるか。 ○大きな本館と小さな分館という運営もよいか検討。 ○唐木田図書館の委託運営。 市民からは直営化の検討を要望。 ○人口構成・ニーズの変化。 福祉行政に職員が必要になっていく。 ○正規職員から嘱託職員に業務移行を工夫しているが人員配置が厳しい。 ○直営で専門職がいて、どこの館でも同じようなサービスを受けたい。 ○地域の貸出ﾆｰｽﾞに応えることも重視。 ○市の政策や将来予測も基本構想に反映。少ない予算をどう活用するか。 ○１０年２０年先に高齢化したところで世代交代が進み人口が増えるか、街の状況の見通しが大切。
図書館分館 ＜拠点館＞ ＜地域館＞ ・関戸　・東寺方・豊ヶ丘 ・永山　・聖ヶ丘・唐木田	カルタ05/本・拠点館 カルタ09/本・地域館 ○乳幼児を含めた児童へのサービスを手厚く。 ○高齢者に必要なサービス、医療や健康の情報。 ○新聞雑誌などの更新されるコンテンツを充実。 ○通って楽しいのはベストセラーがたくさん並んでいるような開架室だけではないだろう。 ○資料は司書が考えて揃えるのが良い。 ○調布市や町田市の蔵書構成 ○地域館の蔵書構成は地域館の職員が責任を	カルタ06/人・拠点館 カルタ10/人・地域館 ○障がい者サービスは中央館に移すのか、永山か。 利用者の多いところで行うか検討したい。 ○視覚・精神など様々な障がい、個別にサービスをしなければならない。 ○働き盛りの世代の利用に応えるには難しい。 ○サービスの質とレベルと規模が共通の問題。	カルタ07/場・拠点館 カルタ11/場・地域館 ○企画展示は大切。 ○おはなし室がほしい。 ○おはなしコーナーの利用と一般利用者との調整。 ○広くはないのではしゃぐ声と調べ物の利用者がバッティング ○喫茶コーナー、ほっとする休憩コーナーはよい。 ○気軽に足を運べる空間。身構えずに入りやすい図書館。 ○高齢化社会。健康などの情報が得られる、気軽に身近に杖をついて行くことができるところ。 ○子どもが利用しやすい。 ○乳幼児期に絵本の読み聞かせができるスペース。 ○地域の居場所づくりを図書館が背負うことか、地域コミセンが提供すれば良いのでは。	カルタ08/活動・拠点館 カルタ12/活動・地域館 ○基礎調査や諮問答申どれにも中央図書館の大切な仕事に、地域館を支援するとある。 ○反対運動もあって地域館が残ることになったが基本構想には、変遷がわかるような記述が必要。 ○活動室であかちゃんおはなし会をやっている。 安全な、おはなしスペースがあれば。	
全域奉仕 図書館ｼｽﾃﾑ ＜ﾈｯﾄﾜｰｸ＞ ・行政資料室 ・幼稚園保育園 ・(学校図書館支援) ・病院/老健/包括支援施設	カルタ13/本・ネットワーク ○病院図書室との連携・配本サービス 患者が前向きになる読書を届ける。 ○市民活動資料、新本館にも置いてほしい。 ○学校図書館から市立図書館の資料の検索ができる。	カルタ14/人・ネットワーク ○学校図書館は、全校司書を配置している。 ○学校図書館に週３回の連絡便運行。互いに資料費はきびしいが，オンライン環境等で支えている。 ○行政資料室に資料は置いているが，活用されるよう工夫ができていない。	カルタ15/場・ネットワーク ○地域館の老朽化、リニューアルの必要性。 ○大規模改修の時期にあわせ改修計画の研究を。 ○地域包括支援センター複合案。地域の人と議論を。 ○現在のサービスでの地区館とすると規模が小さい。 ○普段の生活で目につく位置、駅近くの市の用地に図書館に関わる情報を出すモニターが欲しい。	カルタ16/活動・ネットワーク ○学校で出前おはなし会。ボランティアが活躍。	
	資料世界 ＜世界表現性・地域性＞	図書館員 ＜専門性＞	図書館施設 ＜ひろば性＞	市民利用者 ＜市民性＞	ﾌﾚｷｼﾋﾞﾘﾃｨ＆ｻｽﾃｨﾅﾋﾞﾘﾃｨ ＜持続可能性＞